



モード学園コクーンタワー

「形の校舎を」とのご要望を受けたことに加え、建築家であり教育者でもあった父・丹下健三の下で働きながら受け継いできた、特別な思いをもって設計に臨んだつもりです。

その根幹は、「学校建築とはどうあるべきか」、「ものを学ぶとはいかなる行為か」という考え方です。もちろん、先生が生徒にものを教える場として学校は大切な空間なのですが、学びというのは授業だけで終わ

りませんし、生徒同士のコミュニケーションも学びと言えるでしょう。

例えば、廊下。父からは「教室より廊下のほうが大切なんだよ」と言われてきましたので、私どもが手がける建物は学校に限らず、オフィスビルであっても廊下のあり方を大切にしてきました。昼休みにおしゃべりをする廊下にしろ、放課後にワイワイやる校庭にしろ、そこで会話を交わすことで生きた情報交換ができ

## タイポロジーをいったん分解

モード学園コクーンタワーは、ご自身もクリエイターであるモード学園の谷まさる学長より、「今までにな

# 丹下憲孝

建築家

今年10月に竣工した「モード学園コクーンタワー」(東京・新宿区)は、地上50階、高さ203mの超高層建築。従来の学校の建築とは異なった、学生の創造性を刺激し、社会に新しい価値観を示した丹下憲孝氏に、コクーンタワーに込めた想いや発想の原点、建築と都市に関する考え方を聞いた。

たんげ・のりたか  
1958年、東京都生まれ。ハーバード大学大学院修了後、丹下健三・都市・建築設計研究所入所。97年より同社の代表取締役社長、2003年、丹下都市建築設計の代表取締役に就任。主な作品は、フジテレビ本社ビル(東京)、東京ドームホテル(東京)など。

共通する心地よさと「らしさ」が  
バラエティを生み出すのです。



CHANGE!  
源泉